

20056

TAVI 術後において jail された native coronary へのアプローチの検討

はじめに

当院では 2013 年から TAVI 治療が開始され 2018 年までに症例数は 300 例を越え、また院内死亡率もゼロであり、今後
も一定の割合で TAVI 治療がおこなわれていくと思われる。

目的

今回 TAVI 治療がおこなわれた約半年後に何らかの原因によって native 冠動脈の血流不全が起こり PCI でレスキュー
できた症例を経験した。TAVI 治療の症例数が増加していくなかで本症例のような合併症が起こった場合において PCI シ
ステムで素早くリペアできることは重要と考えられ今回のケースを検討することとした。

経過

2018 年 1 月 11 日 Evolut R (26) で TAVI 治療された。

2018 年 9 月 27 日調子がわるいということで入院精査をおこなったところ、エコーで diffuse hypo EF44% TnI も上昇し
ており緊急 AOG 施行すると AR が増悪しており LCA 全体的に血流低下しているよう。RCA の血流は問題なし。心不全管理
のため ICU へ入院となる。

2018 年 9 月 30 日夜間 CPA となり PCPS 挿入し血行動態安定させてから LCA の血流低下に対し PCI 施行し native LCA
から Ao ヘステントを出す形で血流確保に成功した。

2018 年 10 月 13 日 ICU 退室された。

結果

本症例で起きた TAVI 治療後何らかの原因による native 冠動脈の血流不全に対して PCI システムで素早くリペアできた
ことで心機能、ADL ともに良好で無事退院となった。また、本症例を経験後、体外で模擬血管を使用し TAVI 弁留置後を
想定した冠動脈への PCI システムでのアプローチの実験をおこなったので併せて報告する。